

第 1190 回放送分『ACP』3 回目

ゲスト：大瀬克広ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「ACP アドバンス・ケア・プランニング」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 大瀬克広（おおせ かつひろ）ドクターです。大瀬さん、よろしくお願いいたします。

大瀬克広 Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

アドバンス・ケア・プランニング、その頭文字をとって ACP ですが、先週は、高齢で一人暮らしの方が倒れてしまうとどのような医療を受けたいかなどの意思が分からないため、なるべく身近な方に自分の思いを伝えておくことが大切というお話でした。そして、かけつけた救急隊が分かるように、玄関などに「〇〇さんに連絡してください」と書いておくなどすると、さらにいいということでした。

大瀬克広 Dr.

はい。先週は一人暮らしの方についてお伝えしましたが、現在ご家族と同居している方も、同居しているから安心というわけではありません。

二見いすず

倒れて意識のない状態だと、あらかじめ自分の思いを伝えておかなければたとえ同居している家族がいても分からないからですね。

大瀬克広 Dr.

そのとおりです。事前にそのような話題を家族でしたことがなければ、いざ倒れたときに「どうしたらいいんだろう」と困ってしまいます。二見さんは、救急隊の DNAR プロトコールというのをご存知ですか？

二見いすず

いいえ、初めて聞きました。どのような意味なのでしょう？

大瀬克広 Dr.

DNAR というのは、心臓や呼吸が止まったときに、心臓マッサージなどの延命を目的とした蘇生処置を行わないという考え方を表す、英語の略です。

二見いすず

ということは、救急隊が蘇生を試みないということでしょうか。

大瀬克広Dr.

そうです。これは、心肺停止の患者さんで、心肺蘇生を望まない意思が確認されている場合に、患者さんの意思を尊重した救急活動を行うための手順です。

二見いすず

「私は心肺蘇生を望みません」という自分の意思を誰かに伝えているからこそ成り立つわけですね。

大瀬克広Dr.

そうなんです。もし家族の誰にも伝えていなかったら、家族が救急車を呼び、そして駆けつけた救急隊は一生懸命、蘇生を試みます。ちなみにこのDNARプロトコルは、鹿児島市を含む薩摩地域と、奄美大島などで導入されています。

二見いすず

このようなお話を伺いますと、自分の意思を誰かに伝えておくことの重要性を改めて感じますね。

大瀬克広Dr.

はい。一人暮らしであっても、家族と同居していても、いま元気であっても、自分の大切な人生なのでしっかりと考えてそしてその想いを誰かに伝えておいていただきたいです。

二見いすず

よくわかりました。
今月は「ACP アドバンス・ケア・プランニング」についてお送りしています。
お話は鹿児島県医師会の大瀬克広ドクターでした。
大瀬さん、ありがとうございました。

大瀬克広Dr.

ありがとうございました。